



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

9月号

令和6年 9月 2日

校長 小塚 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども

たちの育成を願って～



たくさんの喜びにあふれるリオ日学 充実の2学期 !

「早く学校に行きたい。週末も学校があれば良いのに！」

なんともうれしいセリフが聞こえてきました。1日1日の学びに「できた、わかった」の感動があり、休み時間や食事中、途切れることのない会話と笑顔は、仲間を大切に思う優しさにあふれ、健やかに成長する様子から、10年後、20年後も、きっと子どもたちにとって、リオ日学は輝きの中にあるのだろうと予見します。

非認知能力(テストでは数値化できない協調性・コミュニケーション力・やり抜く力・意欲など)がこれからの時代には重要であると言われます。リオ日学で学ぶからこそ得られる力を大切にしていきたいと思います。

○ 自ら学ぶ喜び 主体的に行動できる！



9月9日(月)に実施する連邦大交流に向けて、リオ日学が主催する活動グループごとに決めています。30人の大交流が楽しめるか楽しみです。



総合学習では、ブラジルの食文化やスポーツ・乗物などについて各自がテーマを決めて調べ学習をしています。



代表委員会では、生活目標を決めるために会議を開き、意見交換しながら自分たちの行動を改善するスロガンを考えます。自分たちで決めたからこそ、言葉の重みが増します。



暑い季節になると、ハンカチ・タオルの持参が大切です。主体的に呼びかける姿が輝いています。

○全校朝会校長講話(9月2日)より

これは、何のマークか分かりますか？

パラリンピックのシンボルマーク「スリーアギトス」です。アギトはラテン語で「私は動く」という意味です。今、パリでパラリンピックが開かれています。パラリンピックとは何でしょうか？もとは1948年イギリスで、第2次世界大戦で負傷した人のリハビリから始まりました。現在は「もうひとつのオリンピック」として、障害を持つ方がスポーツを通して個性や能力を発揮して活躍できる場であり、それを応援する私たちも、世の中の多様性を知り、社会のバリアを減らしていこうと自覚する大切な機会となっています。リオ日学に「ポッチャ」の道具がありますが、脳性麻痺や足の機能障害の方のために作られた種目で、みなさんもポッチャを体験しましたね。また、写真にある水泳の西田杏選手は生まれつき左腕と右足がなく、義足を使って生活しながら水泳選手を目指していました。小塚茜先生が高校生の時、西田さんは同じ高校の2つ下で水泳部に所属し、金属の義足にローファー(革靴)で通っている姿が印象的だったと話してくれました。

私が出会ったパラリンピックに携わった森田俊光さんの話をします。森田さんは、車いすバスケットボールを通して、小中学生に障害者について理解してもらおうと福祉体験授業をしています。私の勤務した日本の中学校に、5年間、毎年お呼びして、子どもたちと一緒に車いすバスケットボールをしたり、お話をしてくださった方です。

森田さんは29歳の時バイク事故で下半身が麻痺して車いす生活となり、失意のどん底に突き落とされました。その時、「失ったものを数えるよりも、残されたものを数える」という言葉と出会い、「できないことを数えるよりも、できることを数えて夢に向かって生きる」と信じ、車いすバスケットボールに情熱を傾けることができたそうです。

森田さん曰く、一番難しいのは、競技用車いすを動かすこととシュートです。森田さんは、軽々と3ポイントシュートを打つのですが、座った状態では、まずゴールに届きません。『スラムダンク』というバスケットボールの漫画は有名ですが、作者の井上雄彦さんは車いすバスケットボールをテーマにした『リアル』という漫画も描いています。そこには下半身は動かなくても上半身を鍛えるために、血のにじむような努力する姿が描かれていますが、森田さんに、漫画『リアル』をどう思いますかと尋ねると、「あのとおりの現実です」と答えられました。森田さんも漫画に登場しています。

「埼玉ライオンズ」というチームでプレーし、引退後は、全日本チームのコーチも勤め、現在は埼玉ライオンズの監督と福祉について理解を深める講演活動をしています。今回のパリ・パラリンピックではアシスタントコーチとして女子日本代表チームを支えています。

みなさんが生活する中で、「自分にはできない」と思うことはたくさんあります。でも、「現実から逃げる」「行動しないこと」の言い訳を探す「自分に気づくことはありませんか？」「自分には価値がない、やっても無理だから」と自分をごまかして生きる私たちに、パラリンピアンはこう伝えていました。「違いがあってもいい。さあ一緒に、怖がらないで、自分自身であるために」

パリで活躍するパラリンピアンと共に、アギトス＝「私は動く宣言」をしましょう。「苦手な教科を毎日少しずつ復習します」「自分の夢が叶わないとあきらめていたけれど1歩ずつ歩いていきます」「新しい環境で自分らしさを少しずつ発揮していきます」。さあ、9月が始まります。「できることを数えて、夢に向かって生きる」みなさんを応援します。